

**2026年度AO選抜 文学部 国際コミュニケーション学域**  
**「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・朝鮮語）」**

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際コミュニケーション	30	24	22

**2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

本学域の選考に提出されたエントリーシートと志望理由書では、おおむね英語学習に対する積極的な取り組みが強調されていました。短期や長期にわたって英語圏やそのほかの国で留学をした経験や外国人との交流の経験について記したのも多く見受けられました。したがって、合否の判断においては、単に留学経験や外国人との交流経験について書くだけでなく、そこから何を学び、どのような気づきがあったのか、どのような取り組みにつながったのか、といったことが具体的に記されているものを評価しました。また、海外経験が乏しい受験者であっても、学習に対する強い意欲と、努力を重ねて成果を上げてきたことが明確であれば高く評価しています。

上記以外の判断基準として重視した点は、第一に、高校時代の学習や活動、学問的な探究心が明確に表現されているかどうかということです。第二に、本学域が提供する学びと本人の希望との関連が自分の言葉でしっかりと説明され、不一致がないか、という点です。入学試験の要項や本学域のホームページを通じて、本学域の特徴を把握するとよいでしょう。第三に、高校での学習以外の活動経験として海外留学の経験がなくても、言語や文化、国際社会の課題に対するしっかりとした問題意識が見られ、それを自分自身の言葉で明確かつ論理的に示している場合は、高く評価しています。

(2) 解答状況

今年度も昨年度と同様多くの出願があり、志望理由書の内容も一定の水準を満たしたものが大半でした。しかし、本学域が提供する学びと本人が大学で学びたいことや期待することのあいだにずれがある場合や、それらと高校生活中に学んだことや将来の展望に関する記述が一貫していない場合もありました。そういったケースの場合は、不幸なミスマッチを避けるためにこの段階で不合格としました。本学域で何を学び、どんな挑戦をしたいのかを明確かつ具体的に論じた文章が求められます。

**3. 第二次選考**

(1) 評価ポイント

第二次選考に進んだ受験生は、英語に関する能力や意欲の点では、学域が期待する水準をおおむね満たしていたことから、面接では高校時代の取り組み、本学域を志望した理由、大

学入学後の学びと将来の展望などの点について、自分の言葉でしっかりと説明できるかどうかを確認しました。学問的関心に関しては、将来のキャリアに直接結びつく場合もあれば、そうでない場合もありますが、本学域で探究できる学問テーマへの意欲と理解がしっかりと伝わってくるものを評価しました。

## (2) 解答状況

ほとんどの受験生は、面接に向けて十分に準備してきたことが伝わってきました。その中でもとくに、学域の特徴をしっかりと調べたうえで、本学域を志望する理由や入学後に本学域で学びたい内容に関して、自分の言葉で明確に答えることができた受験生が高い評価を受けました。

## (3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

面接では、本学域を志望した理由、大学入学後に学びたいことや将来の展望などについて質問しました。さらに、高校での課外活動や留学体験、それらを通して得た知見についても質問しました。

## (4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

学問への積極的な姿勢、思考力や分析力、論理性、目的意識の明確さ、さらにそれらを自分の言葉で明確に表現できる力があるかどうかを確認します。併せて、本学域が提供する学びと受験生が学びたいこととの間にミスマッチがないかについても判断します。

## (5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

本学域を志望する受験生の多くは、短期・長期にわたる留学や海外訪問、英語話者との交流といった経験を持っています。そのため、受験生に対しては、単に英語力が向上した・外国人と触れ合ったというエピソードだけでなく、その経験から何を学んだのかについての深い内省を期待します。また、面接官の質問を適切に理解し、的確に応答できるかどうかも評価のポイントとなります。

以上